

アットホームカップ2022  
第20回インディペンデンスリーグ  
全日本大学サッカーフェスティバル

～大会を終えて～

---

田口 新(吉備国際大学)

# MENU

---

- ▷ 自己紹介
- ▷ 大会について
- ▷ 試合について
- ▷ 自分のパフォーマンスについて
- ▷ 各地域の学連審判部について
- ▷ まとめ

Profile 簡単に…

田口 新 (タグチアラタ)

岡山県岡山市出身

吉備国際大学 社会科学部  
スポーツ社会学科 4回生

吉備国際大学サッカー部マネージャー

サッカー2級審判員



# 大会について

## 派遣期間

2022年11月28日(月)～12/1(木)

※大会自体は12/2までありますが、関東・東海地域から派遣の審判員以外は元々12/1までの派遣でした。

## 試合会場

清瀬内山運動公園サッカー場(東京都清瀬市)

## 派遣枠

北海道1、東北1、北信越1、関東2、東海2、関西2、中国1(田口)、四国1、九州1

# 試合について

## 担当試合

1回戦 静岡産業大学B1vs富士大学U-22 (主審)

2回戦 関西学院大学B1vs国士館大学U-22A (4th)  
産業能率大学U-22Avs大阪学院大学I (副審2)

準決勝 新潟医療福祉大学Bvs大阪学院大学I (副審1)



# パフォーマンスについて①

主審:

開幕戦を担当しました。自分自身の持つサッカー感(観)とチーム・選手の持つ能力を融合させ、熱い試合を提供しつつ安全を担保するという意識で臨みました。結果、試合の雰囲気とどう試合に導きたいかという思考がマッチした試合にできたと手応えを感じることができました。

試合終了後に競技のフィールドから本部テントに引き上げる際、敗退したチームの選手複数名から「やりやすかった」「あなたに裁いてもらえてよかった」など、わざわざ寄ってきて話しかけてくださったのが何よりも嬉しかったです。

課題

【事象】ファウル(ラフプレー)に対してアドバンテージを採用→プレーは続き、流れたボールをGKがキャッチ→ファウルを受けた選手は起き上がれないでいる→プレーを停止し、負傷の確認と警告の提示

→の際にプレーを続行させるか停止させるかを迷い、笛を吹くまでに若干時間が空きました。

数秒の出来事かもしれませんが、判断が遅れたり迷ったりすることでチームや選手からの不信感、試合が緩むきっかけになると思います。試合中にもっと気付きやアンテナを張って情報を入れ、素早い対応で試合を進めることが必要だと感じました。

## パフォーマンスについて②

副審:

事象と主審のポジションや表情を確認しながら、ファウルサポートの質を考えて臨みました。旗を振ったほうがより説得力が増すのか、旗を振ることで主審の威厳が損なわれないかなど時と場合に対して臨機応変に対応することを意識しました。

主審がファウルを感じておらず、私のほうが良く見える事象に対しては積極的にサポートを行いました。

課題

動きがカクカクしていて違和感を感じる。もっと自然でスマートな動きが必要。

4th:

特に困ったことはありませんでした。

## 各地域の学連審判部について①

### 北海道:あり 2018年発足

大学生・専門学生・社会人は不問。大学生世代の審判員が入部できる。  
月1～2回の講義を実施。審判としてのテクニカルなことから社会人としての心構えなど内容は様々。

### 東北:あるけど機能しているかどうか・・・(幽霊部員多数)

県間の連携が薄い。宮城県は活発に活動しているとのこと。

### 関東:あり

関東2部やIリーグの派遣がメイン  
休暇期間中は合宿を実施。大会を使って他地域の学連ともコラボして実施。  
ルヴァンカップの運営体験など、審判以外の側面からもサッカーに関わることができる



## 各地域の学連審判部について②

北信越: あるけど県によって活動量に差がある(県単位での活動が多い)

審判資格を保有していると部費が数万免除される大学もある。

とりあえず取得した(させられた)人がIリーグを担当すると、かろうじて試合が成り立つといったこともある。

東海: あり

Iリーグの主審副審や学生主催の大会を担当。

研修は基本学生主導で行う。(テーマ決めなど) 学連担当の大人は基本見守る。

関西: あり 2006年発足

会費を徴収年間¥6,000。ただしコロナ後は¥3,000。

Iリーグがメイン。年間378試合の主審を受け持つ。(INSも半数の試合に付く)

夏・秋・冬に大会を使って合宿を行う⇒運営役員としての自覚・意識の向上

研修会を定期的実施。学連の予算で講師を招聘。テクニカルな内容が多い。

## 各地域の学連審判部について③

中国:あり やっと胸張って「あります」と言えました。

岡山県学連について、広島大学でのデンソー選考会を使用した研修会についての2点を紹介しました。

四国:なし(設立願望はあり)

今回参加していた子が発足に向けて連盟に働きかけるようです。

九州:なし(設立願望はあり)

Iリーグは主審から4thまでホームチームが担当。

大学1部は主審と副審1が派遣で副審2は帯同で実施。

大学2部は主審が派遣で副審は帯同で実施。

学連に加入すると協会割当が受けにくいのではという懸念があるそう。

## 発表を聞いて感じたこと

各地域とも学連とFAは別物の扱いである。反対に中国は各県FAに学連担当者がいるので学連そのものの閉塞感を感じない。(これは中国の強みであり恵まれているなと感じました)

現在岡山県で行っている県学連での割当可能調査後(Googleフォームで担当可能試合を回答)、kickoff上で諾否入力が行われることを紹介すると非常に驚かれた。

他の地域は協会割当としてではなく、基本的に自分たちで割当を行っているそう。

どの地域も学連とFAの連携・協力が課題であり必要だと話していた。

今の中国(岡山県)は大人(FA)の主導によって(頼って)運営されていることは非常にありがたいです。学生主導による自主運営もが今後望まれることだと思いますが、それを実行するにはFAの方々も見守り役のような存在として関わっていただくことで円滑な運営・組織が形成されていくのでは？と感じました。

# 最後に

この度は、大会への参加にあたり推薦していただいた関係者の皆さま、本当にありがとうございました。

私自身、2019年大会(@Jヴィレッジ)以来の参加となり、その際にお世話になったインストラクターの皆さんに、少しでも成長したパフォーマンスを見せたいと意気込んだ大会でした。

大会期間中、私の現在のベストは試合で表現できたと思っています。ただこれで満足は全くしていません。もっともっとサッカーを深く知って、感性を高め、魅力ある試合を創り上げるために更に成長にしたいと思いました。

他地域の同世代の審判員との交流も新鮮なものでした。関東関西東海など歴史のある学連審判部もあれば、私たち中国のように出来立て、もしくはこれから設立しようとする学連審判部まで様々な情報交換ができました。

今回持ち帰った情報を少しでも今後の中国学連審判部の発展のために寄与できれば幸いです。

この大学生活の4年間を振り返ってみると、岡山県学連審判部の一員として、中国学連審判部の一員として、多くの大学にお邪魔し、試合を担当させていただきました。私が彩り豊かな大学サッカー生活を送れたのも、各大学のチーム関係者の皆さま、審判委員会の皆さまの協力と支えがあったからこそです。私にサッカーの楽しさ・面白さを引き出し、導いてくださったチーム関係者の皆さま、藤岩秀樹氏、堀格郎氏をはじめとする審判委員会の皆さま、4年間本当にありがとうございました。

今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



**Thank you.**